

WEL・NET

通信

2014.11

発行日 平成26年 11月1日
発行 西広島リハビリテーション病院
事業局
☎ 082-921-3230 (代表)
URL <http://www.welnet.jp>
E-mail wel@welnet.jp

- NEURO (TMS 治療+集中的リハ) について
- 災害派遣活動報告
- 西リハ家族教室リニューアル など

特集 1

(磁気刺激治療+集中的リハ)

NEURO ニューロ

NEURO (ニューロ) は、東京慈恵会医科大学付属病院の安雅雅博教授グループが考案した、手指の麻痺を改善するための新しい治療法です。平成 25 年に「NEURO (ニューロ)」という名称で正式に商標登録されました。

当院では平成 22 年より、発症後 1 年以上の生活期 (維持期) の方を対象としてこの治療プログラムを導入し、現在までに約 160 名の患者さんに対して治療を実施しています。(※2014 年 10 月 24 日時点) また、今年度より発症後 3 か月以降の回復期時期の患者さんに対しても、この治療を行えることとなりました。

- ※ 診察により、治療の適応がある (=治療の効果が期待できる状態である) と判断された方のみ治療の対象となります。
- ※ 治療を受けていただいたとしても、全ての患者さんに効果がみられるわけではありませんので、どうぞご理解ください。

病院長に
インタビュー!

ニューロ NEURO という治療法

NEURO の良いところは?

NEURO は磁気刺激の後で訓練と自主トレーニングを行う方法ですが、自主トレーニングは比較的少ない負荷で、特殊なテクニックも必要なく、家でもできますよね。だから、ここで治療を受けたあと、家でも続けられる、長期的に継続できるプログラムになっているところが良いと思っています。入院期間だけ良くなっても、家に帰って何もしないとまた機能が落ちてしまうので、自主トレーニングの指導も大切なことなんです。また、磁気刺激についても今のところ副作用は出ておらず、極めて安全な方法だと思っています。

適応基準について

やはり医学的にきちんとした根拠があってこそその治療ですから、適応がある方でないとう治療はできません。適応がない場合の方が、診察に時間がかかります。NEURO は受けられない、でもそれなら私はどうすればいいのでしょうか? という話になるからです。

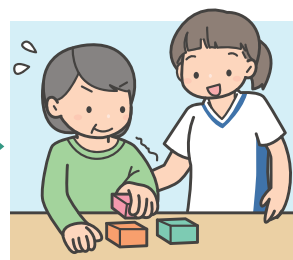
私は安保先生に、断る人ほど丁寧に診察しろ、と教えられました。麻痺は、努力をやめてしまうと、もっと悪くなる可能性がある。だから手の訓練も、NEURO ができないからダメではなくて、今はこの段階でこういうことをしっかりやっってくださいということを、分かるように説明しなければいけないと思っています。

NEURO のしくみ



TMS治療 (磁気刺激治療)

磁気刺激を与えることで、脳の神経活動性が高まり、リハビリに反応しやすい状態になります。



集中的リハビリテーション

その後リハビリを行うことで、脳の代償能力が最大限に発揮され、神経症状の回復を促進します。



慈恵会医科大学及び関連病院における規定研修プログラムを終了し、その後 100 例以上の施行症例を有するとして認められた医療機関のみが使用できるロゴです。

回復期の NEURO 現在の状況・今後の展望

もともと回復期の方は通常のリハだけでもある程度改善していくわけですが、それと比べてもよりプラスの効果が出ているのではないかと考えています。まだ数名の方にしか行っていませんが、今のところ、思っていた以上に良くなっているという印象です。

回復期の適応基準は生活期 (維持期) のものとは少し変えているんですが、適応になる方が思ったより少なくて…。やはり回復期でやるからには、より適応基準を広くして、重度の方の麻痺を良くしたいというのが今後の展望です。そのためには、機械の技術もですけど、僕らの腕も上げていかないとイケませんね。

病院長
岡本 隆嗣



当院の広島県大規模土砂災害に対するリハビリ支援活動についてご報告します。

8月の豪雨による大規模土砂災害で、広島市は甚大な被害を受けました。当院を退院された患者さんも、1人の方がお亡くなりになりました。犠牲となられた皆様に謹んで哀悼の意を表します。また、被災された方、そのご家族、関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

広島県地域リハビリテーション広域支援センターである当院は、広島県災害時公衆衛生チームとして、リハビリスタッフを避難所へ派遣致しました。今回の災害リハビリテーション支援の実状を、支援体制や地域連携強化の必要性をご理解いただく目的でご報告いたします。

派遣活動概要

	理学療法士	作業療法士
第1クール 8月27日～8月30日	2名	2名
第2クール 8月30日～9月3日	2名	2名
第5クール 9月11日～9月15日	1名	1名
第6クール 9月15日～9月19日	1名	

※引き継ぎの為、終了と開始の日程は重複しています。

現地では、他の支援者と連携・協力しながら、集団・個別リハビリの指導、避難環境整備のお手伝い等を行いました。



▲ リハビリ体操指導場面

派遣スタッフレポート

初日は、避難されている方のお話を聞きにいてもいいのだろうかという戸惑う状況でしたが、単にリハビリを行うということではなく、話を聴くことが大切だと思いました。話を聴くことで、できることから1つ1つ対応していくことが、まず大切なのだと思います。

(第1クール担当 作業療法士)

災害から1週間後の介入で、避難者の皆様は疲労とストレスと、再び土砂災害が起こるのではないかと不安を募らせていらっしゃいました。少しでもお話を聴くことで、不便に感じておられることなどをリストアップし、環境調整の提案をさせて頂きました。また避難者の皆様だけでなく、避難所の職員の皆様にも運動量が低下されている方が多く、ラジオ体操や腰痛体操などを行って、生活不活発病の予防に努めました。

(第2クール担当 作業療法士)

集団体操や個別リハを中心にに関わり、会話することで、10の不安を8にも7にも軽くすることができることを実感しました。より効果的であったと感じたのはサロンコーナーでした。閉じこもりがちの方も、そのスペースではお茶を飲んだりペーパーブロックなどの作業をすることで、私たちが輪の中に入っていきやすく、避難者同士の交流ができていたように思います。

(第5クール担当 理学療法士)

避難者の皆様は何を求めているかを、言葉で聞き取るだけでなく生活全体を通して把握し、各職種と相談・提供・改善していくことが必要でした。しかし支援者と行政との連携に時間を要することがあり、皆様の生活にストレスを与えてしまうこともありました。日頃から連携を強化し、突如起こる災害にも対応できるようにすることが必要であると感じました。

(第6クール担当 理学療法士)

災害派遣先での避難者の方への支援は、病棟でのリハビリテーションに通じるところがあります。避難所では、まず生活を行う上での食事・トイレ・睡眠・入浴といった支援が大切ですが、これは回復期リハ病棟のケア10箇条にある事柄と同じで、リハビリテーションの基本姿勢です。また、精神的ケア、心理的支援がまず必要だということ、これも、突然の発症で障害を負ったリハビリテーションの患者さん・ご家族への支援と同様です。

こうした災害支援で迅速に行動するためには、日ごろから行政や各職能集団との連携を密にしておくことが大切です。地域連携の大切さを再認識する機会ともなりました。

病院長 岡本 隆嗣



▲ 他の支援者と打ち合わせの様子

当院のサービスをご紹介します！

言葉のデイケア

医療法人社団 昭和会
介護老人保健施設
花の丘

コミュニケーションに障害がある方に、「安心して過ごせる場」を提供する事を目的としたサービスです。専門的な言語訓練だけでなく、症状に合わせたグループでの会話訓練や、音楽療法を取り入れたグループセッションなどを行っています。平成 26 年 6 月より、火曜日もスタート！さらに楽しく充実したプログラムを提供していきます。

service information

- 実施日時** 毎週火・水曜日
6～8時間 or 3～4時間
- 対象者** 失語症・構音障害など、言葉に障害をお持ちの方のみが対象
- お問合せ** TEL (082)924-1187
介護老人保健施設 花の丘



▲ 秋の食材たっぷりのオリジナル定食を作るゲームで会話が弾みました。この日の様子はブログでも紹介していますので、是非見てみてくださいね♪

ブログ登場！

言葉のデイケアのブログができました！
担当スタッフが毎月デイケアの楽しい会話の様子をお伝えします。



当院ホームページ ▶ 言葉のデイケア ▶ 言葉のデイケアブログ

転倒予防教室 (集団型)



広島市の特定高齢者向け介護予防支援事業の一環として、「転倒予防教室 (集団型)」を行っています。運動機能を鍛えて心身の老化を防ぎ、できるだけ介護が必要な状態にならないことを目的としています。

参加者の声

- 身体の痛みが少なくなった。
- 今までより歩くスピードが速くなったと思う。
- 1人で行うより皆で運動する方が楽しくて元気が出る。
- 身体がスッキリするので楽しみになった。

service information

- 期間** 3か月間 (週1回・約13回)
- 日時** 毎週火・水・木いずれか 14:30～15:30
- 対象** 地域包括支援センターで認定された高齢者
- 申込** お住まいの地区の地域包括支援センターへ
- 費用** 無料



▲ フィットネスジムのエアロバイクで有酸素運動。

特徴 ①

健康運動指導士が、参加者さんお一人お一人の体力に合った効果的な運動を分かりやすく指導しています。歩行フォームを撮影し、理学療法士によるアドバイスも行っています。



特徴 ②

ご自宅で運動を続けるためのホームエクササイズカードをお渡ししています。



特徴 ③

公共交通機関で通うことが難しい参加者向けに、最寄りの公民館・公園への送迎を行っています。





平成 26 年 4 月～ 10 月に実施した地域リハビリ研修会です！

当院は **地域リハビリテーション広域支援センター** です！

当院は、地域におけるリハビリテーション支援体制を推進するための施設として、広島県から指定を受けています。地域リハビリ活動の一環として、地域リハビリ研修会を 2～3 カ月に 1 度開催している他、出前リハビリ講座の実施、区民祭りへの参加、広報誌やホームページ、退院患者統計での情報発信などを行っています。

嚥下食の レポーターを増やそう！

5 月 24 日

～夏負けしないメニューの工夫～

講師：影山 典子（管理栄養士・栄養課課長）
対象者：ご家庭で嚥下食を作られる方
受講者数：19 名

「できるだけ手間をかけない」をテーマに、当院の管理栄養士が嚥下食のレシピを紹介しました。暑い夏を目前に控え、水分補給や夏バテ防止の工夫についてもお話ししました。夏の定番ともいえるビールやそうめん、また夏



▲ とうもろこし実験も行いました

バテ防止に良いビタミン B1 が豊富な豚カツなど、飲み込みが難しい方にも召し上がっていただける調理方法を紹介し、参加者の皆さんと調理実習・試食を行いました。



- ▲ 実演形式で調理の工夫を紹介
- ▶ ビールで作るゼリー。
ちゃんと泡もついてます♪



参加者の声

- 家に帰ってからの不安があったけど、先生のお話を聞いて少しは自信が出てきました。（一般参加者）
- 試食することで、実際に作ってみようと思うので良かった。（介護職）
- ストック野菜、とろみだしの作り方を教えていただいたので、活用したいと思います。（一般参加者）



▲ グループごとに起き上がり介助の練習を行いました。

お互いラクな 身体介助のヒント

8 月 2 日

～リハビリの視点から～

講師：松田 秀之（理学療法士・主任）
対象者：在宅で介護をされている方・ケアスタッフ
受講者数：19 名

起き上がり動作を中心に、お互いに少ない負担で介助を行う方法について、実演と講義を行いました。ポイントは、重心の移動や筋肉の動きといった体のしくみを理解した上で、立ち位置や力を入れる方向を考えること。そして、体の動かしやすさには個人差があるので、お互いが楽だと感じる動きを考慮して介助を行うことです。グループに分かれて体験と練習を行いました。



▲ さまざまな介助方法のパターンを動画で紹介しました。

参加者の声

- 体のしくみを教えて頂いたので、介助される人と一緒に力を合わせて行っていききたいと思います。（介護職）
- 起き上がりで片脚を残す方法などは、とても役立ちそうです。頭を上げやすくするポイントも良かったです。（ヘルパー）
- 実技の時間が長くて良かったです。（リハスタッフ）



なぜむせる？ 10月22日 むせたらどうする？

～知って安心 安全に食べるための
基本の「き」第2弾～

講師：沖田 啓子
(言語聴覚士・リハビリ部部长)
対象者：むせに困っているケアマネ・
ケアスタッフ・ご家族など
受講者数：45名

▶ 介助のペースが速いとどうなるか。体験した職員は、「飲み込むタイミングが分からなくなります」と苦しそう。

参加者の声

- どのような流れで食べ物が入っていくかが理解できた。介助するときが楽しみになりました。(ヘルパー)
- 嚥下機能低下を予防する運動ができそうなので、持ち帰って実施しようと思います。(介護職)

むせが起こるメカニズムを説明し、実際にお茶やご飯を使って飲み込み時の口や舌の動きを体感していただきました。その上で、むせが起こらないようにするための食事姿勢やペーシングの工夫、口の筋肉を鍛える体操、栄養管理や口腔ケアの大切さを説明しました。

特集 2

西リハ家族教室のお知らせ

脳卒中家族教室が「西リハ家族教室」としてリニューアルしました！

西リハ家族教室では、入院患者さんとそのご家族を対象に、入院生活の過ごし方や退院に向けての準備についてご説明しています。平成25年4月に名称を変更し、内容もより分かりやすくリニューアルしました。



◀ 退院された方の生活の様子とインタビューをまとめた動画は、「(退院後の生活が) 具体的に想像できた」と好評です。

介助の練習、介護保険の手続きなど、入院されてから退院までの流れに沿ってご紹介しています。



▲ 入院されて間もない時期に参加される場合が多いようです。

参加者の声

- 実際に退院された方の生活(ビデオ)が見られて参考になりました。
- 入院中にしておかなければいけないことがたくさんあることに驚いた。
- 流れがだいたい分かって良かったです。

どなたでもご参加いただけますので、少しでも興味を持たれたら是非足を運んでいただけたらと思います。



service information

対象者 当院に入院中の患者さん・ご家族
日時 毎月第2土曜日 14:00～14:40
場所 本館2階デイルーム
お問合せ 医療相談員にご相談ください。
(ご参加希望の場合、事前予約は不要です)



平成 26 年 4 月～ 10 月のイベント・ニュースをまとめました。

イベント・ニュース

NEW!! ユニ
フォーム

2014/7/1 ~

5 職種のユニフォーム
が新しくなりました。
病棟の景色が新鮮に感
じられたのではないで
しょうか？



認定看護師資格取得

2014/6

杉本 真理子 ▶
(看護介護部部長)

◀ 河田 裕子
(看護師)

認定看護
管理者摂食・嚥下障害看護
認定看護師

認定看護師資
格を取得しま
した。

ソリューションウォーター

次亜塩素酸水による除菌を導入

2013/12 ~

次亜塩素酸水噴霧器を導入し、院内の
除菌を行っております。次亜塩素酸水
(ソリューションウォーター) は、H25
年3月付厚生労働省食品衛生部会にお
いて安全性と効果が確認され、生鮮
食品の加工にも使用が認められてい
る、安全安心な除菌剤です。

次亜塩素
酸水噴霧器

太陽光発電開始



2014/8/22



エコ活動の一環として、病
院屋上にソーラーパネルを
取り付け、太陽光発電をは
じめました。発電状況はリ
ハビリ室横のモニターでご
確認いただけます。

▲ 喫茶フルールの窓からソーラーパネルが見えます。

健康あんしん講座 in 観音公民館

2014/8/30

当院の岡本院長が、脳卒中
や心筋梗塞の予防とリハビ
リについて講演しました。
またフィットネススタッ
フの伊藤が、ラダー (梯子状
のトレーニング器具) を使っ
て運動指導を行いました。



ひろしま発見 TV+ 取材

2014/9/4

人の動きを赤外線で感
知し記録する「キネクト
片麻痺テストシステム」
をリハビリの現場で活
用することについて、
ひろしまホームテレビ
の取材を受けました。

▲ 9月10日「生み出せ！医療現場で
新ビジネス」にて放送されました。広島脳卒中地域連携の会 in 広島
市民病院

2014/7/30・10/15

10月15日の会では
当院の岡本院長が座
長を務め、「回復期
リハビリテーション
病棟過剰時代の到来
を踏まえた脳卒中地
域連携の今後」について講演が行われました。



ホームページ Google インドアビュー公開

2014/10/7



◀ 病院HPのトップページからアクセスできます。

インターネットのGoogleインドアビューで、病院の中の様子(一部)を360度パノラマ画像でご覧頂けるようになりました。

院内研修

集合研修

2014.4.25 疾患と障害と生活の理解勉強会①
診療報酬改定のポイント

講師：事業局長 新家 光晴

2014.5.8 交通安全のルール・運転マナー

講師：広島佐伯警察署 小瀧 光司 係長

最近の事故事例に基づく交通安全の留意点やマナーについて講義していただきました。

2014.5.21 疾患と障害と生活の理解勉強会②
高次脳機能障害のリハビリテーション

講師：病院長 岡本 隆嗣

2014.6.3 感染防止対策研修
手指衛生の重要性と実践

講師：サラヤメディカル事業部 山中秀宣 課長

すべての感染対策の基本となる衛生的な手洗いを再度見直し、作業の都度手指衛生が必要であることを確認しました。



2014.6.16 医療安全対策研修
脱水症の恐怖

講師：医師 岡田 昌信

2014.6.23 疾患と障害と生活の理解勉強会③
頭部外傷について

講師：医師 安東 誠一

2014.6.25 防災研修

講師：施設管理課長 藤田 浩之



2014.7.4 医療安全対策研修
医療安全はハウ・レン・ソウから

講師：事業局長 新家 光晴

2014.7.30 疾患と障害と生活の理解勉強会④
循環器疾患について

講師：医師 荒川 良三

2014.8.1 接遇研修

講師：キャリアプランニング 原田 景子 先生

フィットネスジム ミュートレ・ダンス開始

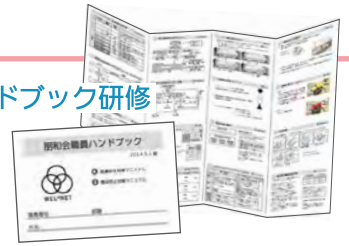
2014/10/16

ウィルフィットネスの利用者向けに、ミュートレ・ダンスを開始しました。ミュートレ・ダンスは、神経学的音楽療法とダンスセラピーの要素を取り入れた新しいプログラムです。音楽療法士の生音楽とダンスに合わせて、楽しく体を動かしていただけます。



2014.8.11 職員ハンドブック研修

リスク管理のために新しく作成した「職員ハンドブックの使い方」について、各部署の担当者から説明を行いました。



2014.8.26 疾患と障害と生活の理解勉強会⑤
神経因性膀胱

講師：医師 佐藤 新介



2014.9.30 中途採用者研修

中途採用者職員のためのリスク対策研修を行いました。

転倒リスク研修では、実際の事例をもとに防止策を検討しました。▲

2014.9.30 疾患と障害と生活の理解勉強会⑥
変形性膝関節症

講師：医師 今村 世津

2014.10.7 リハビリテーション医療における
ゴール設定

講師：小倉リハビリテーション病院
リハビリテーション部長 小泉 幸毅 先生



ゴール設定の基本的な考え方について、様々な症例を交えてご説明頂きました。

2014.10.14 電子カルテについて

講師：各担当者

eラーニング

※開始日を記載しています。開始日より約3週間の間で研修を行いました。

2014.10.24 eラーニング
標準看護介護計画

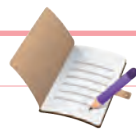
症例検討会

2014.5.27 回復期・生活期合同症例検討会 ⑩
「自宅退院した症例から学ぶ」

2014.7.22 回復期・生活期合同症例検討会 ⑪
「退院3ヶ月後の生活を想像する」

2014.9.24 回復期・生活期合同症例検討会 ⑫
「サービス付高齢者住宅に退院した症例」

※医師やスタッフの肩書き／氏名は掲載時点でのものであり、現在は変更している可能性があります。



テレビ

2014.9.10 ひろしま発ケンTV+ 生み出し！医療現場で新ビジネス
岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 井上 英二 (作業療法士・リハビリ MG) / 山岡 まこと (理学療法士・副主任)

専門雑誌・書籍掲載

2014.4.30 p.30～36 嚥下スクリーニング質問紙 EAT-10 暫定版の有用性の検討
日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌 vol.18(1)
渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 佐藤 新介 (医師) / 瀧本 泰生 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.5 p.571～573 嚥下調整食学会分類 2013一連携に向けて
回復期リハビリテーション病棟での運用と課題
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 臨床栄養 Vol.124 No.5 2014.5
池田 響子 (管理栄養士) / 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG)

2014.5.1 メディカ出版 ニュートリションケア 2014 年春季増刊 食べにくい患者への食事アプローチ イチからよくわかる摂食・嚥下障害と嚥下調整食
(p.70～71) 嚥下障害患者が食べやすくするための工夫ってなに？
池田 響子 (管理栄養士)
(p.74～76) 摂食・嚥下リハビリテーションとはどういうことをするのか？
(p.77～79) 嚥下訓練にはどの職種がかわるの？
(p.122～123) 簡易評価方法ってなに？ 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG)
(p.96～97) うまく食事介助ができないときはどうすればいいの？
(p.98～99) 誤嚥を防ぐには体位角度をどのようにすればよいの？
沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長)

2014.6.15 p.609～612 回復期リハビリテーション病棟における 2012 (平成 24) 年度診療報酬改定に伴う中等度・重度嚥下障害患者層の変化
JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 臨床リハ Vol.23 No.6 2014.6
佐藤 新介 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 荒川 良三 (医師) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG)

2014.8.8 放っておくと危ない！気になる症状 内科で診たい 肩こりと腰痛
西広島タイムス 岡本 昌信 (医師)

2014.8.18 「低頻度反復性経頭蓋磁気刺激と集中的作業療法の併用療法」の複数回施行の効果について
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会
[The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine vol.51 8/9 2014]
玉代 浩章 (作業療法士・副主任) / 安東 誠一 (医師・副院長) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.9.1 地域医療連携「絆」 広島赤十字・原爆病院広報誌「ほほえみ」
岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 吉岡 章 (サービス開発室長) / 岡 光孝 (作業療法士・地域連携部部長) / 鈴木 恭子 (看護部・看護介護部副部長)

2014.10 "Kaifukuki Rehabilitation Ward" in Japan
Jpn J Rehabil Med 2014; 51: 629-633
岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 安東 誠一 (医師・副院長)

外部講演・学会発表

2014.4.26 高次脳機能障害 回復期リハ病棟専従医師研修会 (三田 NN ホール)
2014.5.24 高次脳機能障害 回復期リハ病棟専従医師研修会 (千里リハビリセンター)
岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.5.25 高次脳機能障害を理解する ～よく知って上手に伝えよう～
高次脳機能障害サポートネットひろしま 平成 26 年度啓発事業
岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.5.30 ～ 6.1 第 49 回日本理学療法士学会学術大会
Honda 歩行アシストが脳卒中片麻痺患者の歩行のエネルギー効率に及ぼす影響
丸田 佳克 (理学療法士・副主任) / 田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 山岡 まこと (理学療法士・副主任) / 松下 信郎 (理学療法士・主任) / 福江 亮 (理学療法士・副主任) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長)
回復期リハビリテーション病棟退院時と半年後における脳血管障害患者の健康関連 QOL の変化および IADL と生活空間
田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG)
感覚障害が慢性期脳卒中後片麻痺患者に対する低頻度反復性経頭蓋磁気刺激と集中的作業療法の併用療法の治療効果に与える影響
松下 信郎 (理学療法士・主任) / 田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 山岡 まこと (理学療法士・副主任) / 福江 亮 (理学療法士・副主任) / 丸田 佳克 (理学療法士・副主任) / 漆谷 直樹 (作業療法士・主任) / 玉代 浩章 (作業療法士・副主任)

2014.6.5 ～ 6.7 第 51 回日本リハビリテーション医学会学術集会
回復期リハビリテーション病棟へ入院となった関節リウマチ患者の内服状況 ～骨粗鬆症治療に関連して～
今村 世津 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 佐藤 新介 (医師) / 荒川 良三 (医師) / 安東 誠一 (医師・副院長) / 岡田 昌信 (医師) / 瀧本 泰生 (医師) / 前城 朝英 (医師)
回復期リハ病棟へ転院後早期に経管栄養もしくは点滴による水分・栄養補給を要した症例の検討
佐藤 新介 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 荒川 良三 (医師) / 今村 世津 (医師) / 安東 誠一 (医師・副院長) / 岡田 昌信 (医師) / 瀧本 泰生 (医師) / 前城 朝英 (医師)

回復期脳血管障害患者の歩行に対する Honda アシストの効果
田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 藤井 靖晃 (理学療法士・副主任) / 丸田 佳克 (理学療法士・副主任) / 福江 亮 (理学療法士・副主任) / 松下 信郎 (理学療法士・主任) / 山岡 まこと (理学療法士・副主任) / 橋本 陽平 (理学療法士) / 有末 伊織 (理学療法士) / 園田 泰 (理学療法士) / 藤高 祐太 (理学療法士) / 菊山 香織 (理学療法士) / 中本 舞 (理学療法士) / 松本 強 (理学療法士) / 福岡 美佑貴 (理学療法士) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.6.12 回復期リハビリテーション病棟の現状と課題
地域リハビリテーション推進に係る研修会 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.6.18 脳卒中患者の退院後の転倒に関する退院前因子に関する検討
第 16 回世界作業療法士連盟大会 第 48 回日本作業療法学会
田中 恵子 (作業療法士・副主任) / 藤井 沙由里 (理学療法士) / 田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.6.22 右利き交叉性失語の 1 例
第 33 回日本リハビリテーション医学会学術集会 中国・四国地方会
瀧本 泰生 (医師) / 佐藤 新介 (医師) / 荒川 良三 (医師) / 前城 朝英 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.7.12 ミニレクチャー 1 ICF について
平成 26 年度 第 72 回全職種研修会 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.8.2 高次脳機能障害
回復期リハ病棟専従医師研修会 (三田 NN ホール) 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.8.10 シンポジウム [効率よく実践するためのカンファレンスの進め方]
第 33 回 PT・OT・ST 研修会 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG)

2014.8.30 脳卒中と心筋梗塞編 健康あんしん講座 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

2014.9.6 ～ 7 第 20 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会
回復期リハビリテーション病棟におけるチームアプローチ
ランチョンセミナー 11 回復期リハ病棟について 岡本 隆嗣 (医師・病院長)
回復期リハ病棟における摂食・嚥下リハ 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長)
摂食嚥下・栄養・褥瘡の情報一元化にむけた「NRT 情報シート」の導入
影山 典子 (管理栄養士・栄養課課長) / 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 佐藤 新介 (医師)

回復期リハ病棟における平成 24 年度診療報酬改定に伴う嚥下障害患者層の変化 (第 2 報) 佐藤 新介 (医師) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG) / 大瀬 浩之 (言語聴覚士)
在宅摂食・嚥下障害者へ嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査を通して行った地域連携の取り組み
佐原 幸恵 (言語聴覚士) / 渡邊 光子 (言語聴覚士・リハビリ MG) / 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長) / 佐藤 新介 (医師)

2014.9.13 ワークショップ PEG 患者から学ぶ薬物・栄養・ケアのあり方
第 19 回 PEG 在宅栄養研究会 沖田 啓子 (言語聴覚士・リハビリ部長)

2014.9.20 ～ 21 第 56 回全日本病院学会 in 福岡
病院医療をプライマリ・ケアの現場から考える～地域の未来を診療所と共に～
医療安全報告制度の見直し効果 ～事故報告書の活用変更～
新家 光晴 (事務・事業局長)
研修管理システムを活用した院内研修の質向上 登能 淳 (事務・主任)

2014.9.27 ～ 28 若年女性における膝の形態の違いが片脚立位に与える影響
一定趾機能に着目して～
第 72 回理学療法科学学会学術大会 九十九 力矢 (理学療法士)

2014.10.18 ～ 19 第 30 回日本義肢装具学会学術大会 継往開来～過去から未来へ～
回復期リハビリテーション病棟における歩行支援ロボット (HONDA 歩行アシスト) の活用 岡本 隆嗣 (医師・病院長)
回復期リハビリテーション病棟入院中の定期的装具評価の取り組みと効果
佐藤 新介 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長) / 田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 渡邊 匠 (理学療法士) / 釜屋 真二 (理学療法士)
Gait Judge System®を用いた歩行分析 ～油圧設定別の測定値の変化～
渡邊 匠 (理学療法士) / 釜屋 真二 (理学療法士) / 芦澤 健太 (理学療法士) / 藤村 政徳 (理学療法士) / 松下 信郎 (理学療法士・主任) / 田中 直次郎 (理学療法士・リハビリ MG) / 佐藤 新介 (医師) / 岡本 隆嗣 (医師・病院長) /

2014.10.25 痙縮とボツリヌス治療 一施注のポイントとハンズオンセミナー
脳外科医のための痙縮セミナー 岡本 隆嗣 (医師・病院長)

- 広島中心部より車で約 30 分
- 五日市南口電停よりバスで約 15 分
- 楽々園電停よりバスで約 10 分



医療法人社団朋和会

西広島リハビリテーション病院

〒731-5143 広島市佐伯区三宅 6 丁目 265 番地

TEL (082)921-3230
FAX (082)921-3237
E-mail wel@welnet.jp
URL http://www.welnet.jp/

